

特集

VR/AR/MR
教育への応用最前線VR/AR/MR は教育実装の時代へ 廣瀬通孝
VR/AR を用いた学習環境の開発と学習効果の現在

瀬戸崎紀夫

VR/AR/MR の医療応用の現状と未来 小山博史
学年も人数も違う看護学生への VR を用いた授業の試み

杉本真樹

VR を用いた生活援助技術の学びと今後の発展

宮崎剛司

看護教員がつくる VR 教材の小児看護教育への応用

合田友美

教育と医療における VR/AR 参考映像集

【新連載】

「看護師のように考える」コンセプトにもとづく事例集・1 奥裕美他
臨床倫理を映画で学ぼう！・1 浅井篤

【連載】

看護に恋した哲学者と読む ベナーがわかる！腑に落ちる！・9

榊原哲也

ティーチング・ポートフォリオ作成講座・10 栗田佳代子・吉田星

編集後記

●前号の佐藤浩章先生のお原稿と今号の対談で「ブレFD」について取り上げました。大学の場合、どの分野であっても、教育に携わっている人のほとんどが教育について学んだ経験がありません。それを補うために始まったFDですが、効果を上げるには至っていません。であるならば、教員になる以前の大学院生の段階で教育について学んでおくほうがよいだろうというのが、ブレFDです。教員になってからでないといけないこともあるかもしれませんが、なる前から基礎を身につけておけば、対応の仕方もちみやすいでしょうし、何より優れた先輩の教育力を「理解」してまねることもできます。●専門学校教員のための教員養成講習会でも、ブレFD的な発想で、「看護教育学」の基礎を学ぶ前に「教育学」の基礎を今よりもっと時間をかけて学ぶようにしてはどうでしょうか。……大野

●今、看護基礎教育は指定規則改正の動向が衆目を集めています。あえて、米国のカリキュラム改革、日本への導入を取り上げました。いかがでしたでしょうか。米国なんか関係ない、暴走企画だと思われるかもしれませんが、私自身は、米国でのこうした改革の背景・課題が、あまりに日本の現状と重なることに驚き、また「臨床判断モデル」から紹介してきた一連の教育の動きが、このようにつながっていくことに感銘を受けました。●もちろん、米国の教育が全面において日本より優るとは思いません。ただ、カリキュラムを根本の枠組みから変える膨大な作業を察するに、教育改革がいかに切実な問題だったかを想像することは、さほどの外れではないでしょう。日本も、いずれ直面せざるを得ないかもしれません。……番匠

◎編集室ツイッター
http://twitter.com/KANGOKYOIKU

看護教育 第59巻 第12号 2018年12月25日発行(毎月1回25日発行)

Published by IGAKU-SHOIN Ltd. 1-28-23 Hongo, Bunkyo-ku, Tokyo © 2018, Printed in Japan

(1部) 定価: 本体1,500円+税

2018年・年間購読料(増大号を含む12冊): 冊子版15,540円, 冊子+電子版/個人18,540円, 電子版/個人15,540円(いずれも+税, 送料弊社負担)

発行: 株式会社医学書院 代表者: 金原 俊 〒113-8719 東京都文京区本郷1-28-23 販売部 TEL: 03-3817-5659

『看護教育』編集室 TEL: 03-3817-5776 メールアドレス: kankyou@igaku-shoin.co.jp 担当: 番匠・大野・南部

本誌に掲載された著作物の複製権・翻訳権・上映権・譲渡権・貸与権・公衆送信権(送信可能化権を含む)は株式会社医学書院が保有します。本誌を無断で複製する行為(複写, スキャン, デジタルデータ化など)は、「私的使用のための複製」など著作権法上の限られた例外を除き禁じられています。大学, 病院, 診療所, 企業などにおいて, 業務上使用する目的(診療, 研究活動を含む)で上記の行為を行うことは, その使用範囲が内部的であっても, 私的使用には該当せず, 違法です。また私的使用に該当する場合であっても, 代行業者等の第三者に依頼して上記の行為を行うことは違法となります。

【JCOPY】〈出版者著作権管理機構 委託出版物〉

本誌の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。複製される場合は, そのつと事前に, 出版者著作権管理機構(JCOPY)(電話03-5244-5088, FAX03-5244-5089, info@jcopy.or.jp)の許諾を得てください。0047-1895/18/紙: ¥500/電子: ¥750/論文/JCOPYが本誌の頁表記に並んで記されているのは, 1論文1回複製につき紙は500円, 電子版は750円を要することを明示したものです。表示のない論文などにも適用されます。JCOPY宛にご連絡いただく際には, 筆頭著者名と併せて本表示をご提供くださるようお願いいたします。

『看護教育』は, 株式会社医学書院の登録商標です。

Vol.59 No.11

2018年11月
特集

「母性」「小児」「老年」の概念を変える 家族のダイバーシティ

「お父さんとお母さんと子ども1,2人で全員同戸籍」というのが家族の標準とする見方があります。しかし、上記の構成員のいずれかがいない家族は珍しくありませんし、戸籍を基準とした形態ばかりが家族でもありません。「標準」という考え方は、そこに準じないものを意識的にあるいは無意識に排除しがちですから、注意する必要があります。さて、看護師は「患者の多様性に注目して対応する」ことを求められます。このことは、入学直後の段階から繰り返し語られるものですが、実際、患者を含む家族の多様性にどこまで踏み込んだ教育を受けているのでしょうか。教員はその多様性を十分意識して学生に接しているのでしょうか。今回の特集は、患者はもちろん、学生自身そして教員自身の家族が多様性(ダイバーシティ)をもつことを前提として教育にあたっていただくための、呼び水になればと願って組みました。家族の多様化で概念に変化が生まれるであろう「母性」「小児」「老年」に注目して、提言をいただきましたが、もちろんすべての領域にかかわるテーマです。今までの家族の「標準」にとらわれない柔軟な思考をもつ教員が増えることを期待しています。

- 「家族のダイバーシティ」を3方向から探る——教員がどう認識し、教授していくか……吉沢豊予子
- さまざまな「親」が育児をする時代——「母性」看護の視点を見直す……跡上富美
- 育成期家族の多様性と「拡大する」小児看護——多様化すること、変わらないこと……佐藤奈保
- 「老人」の急増と老年看護の変化——高齢者のとらえ方の多様性……目麻里子／山本則子
- 「家族って何？」から見直そう——“わからない”という前提での教育を……沼崎一郎



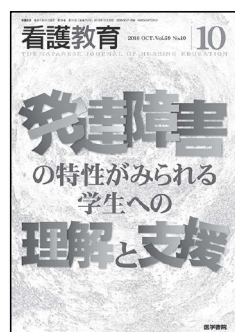
Vol.59 No.10

2018年10月
特集

発達障害の特性がみられる 学生への理解と支援

高等教育の現場で障害のある学生はこの10年でほぼ6倍に増加し、なかでも精神障害、発達障害を抱える学生が増加傾向にあります。大学の場合、文部科学省から「個人に必要とされる合理的配慮が提供されること」が義務付けられていますが、教育界全体をみても、支援体制は構築の途上にあります。特に発達障害、精神障害などの定義が変わりやすく、またグレーゾーンも多く含まれる障害の場合、診断書をもっていないケースもあるため、多くの看護教員が対応に疲労感、困難感を覚えています。もしかすると、こうした困難感は、看護教員が看護と教育のプロである、だから自分たちですべて対応しなければいけないという認識も一因なのかもしれません。本来、障害を抱える学生の支援においては、教員1人がそのすべての責務を担うことはあまりに大変です。また、看護師の資格を得れば終わりではなく、キャリア形成の目線も欠かせません。そして何より、学生本人が不在の支援という問題が多くあります。本特集では、発達障害支援の専門家もまじえた連携や当事者の声もふくめ、看護基礎教育における発達障害当事者支援のあり方について考えます。

- 【インタビュー】支援の誤解とポイント——発達障害支援の第一人者……高橋知音先生に聞く
- 【対応が難しい学習者】は、誰が、何に、困っているのか……川上ちひろ
- 当事者からの言葉——ADHD、ASDの診断を受けた看護学生の悩み……透子「特性」をもつ看護師として学び、働き、みえてきたこと……中島裕子
まとめサイト管理人が語るライフバックと支援……凹凸ちゃんねる管理人
- 看護教員が発達障害について学ぶ意義——書籍「大人の発達障害ってそういうことだったのか」から得られる知見……西田千夏
- 本人自身が困り事を発信できる支援に向けて——当事者を家族にもつ看護教員の視点……中尾幹子
- 【座談会】就職後も見えた、発達障害の学生のキャリア支援とは……川上ちひろ／相馬良子(仮名)／松野友美／堀田亮



【2018年9月号(Vol.59 No.9)】

統合実習は
“統合”されているか?

【2018年6月号(Vol.59 No.6)】

身体拘束から考える
基礎教育と臨床の関係

【2018年8月号(Vol.59 No.8)】

実習指導 虎の巻

【2018年5月号(Vol.59 No.5)】

授業にゲームを

【2018年7月号(Vol.59 No.7)】

主体性を育む「問いづくり」

【2018年4月号(Vol.59 No.4)】

問題解決志向に疲れたら……

バックナンバーのご注文・在庫照会について

- 2016年10月号(Vol. 57, No.10)以前の号は、東亜ブック(TEL.03-5947-4781, FAX 03-3923-4539, <http://www.toabook.com/>)
- 2016年11月号(Vol. 57, No.11)以降の号は、医学書院販売部(TEL.03-3817-5659)にお願いします。